



STM32G0 - GPIO

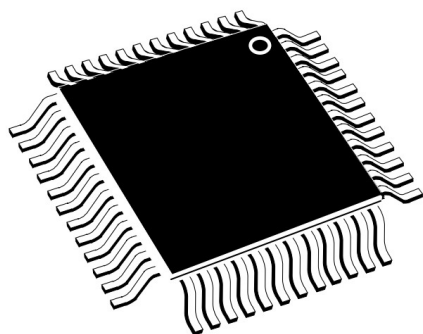
汎用入力／出力インターフェース

レビジョン 1.0



STM32 汎用 IO インターフェースのプレゼンテーションへようこそ。

ここでは、汎用入出力インターフェースと、マイクロコントローラ周辺の環境への接続を可能にする方法について説明します。



- 外部環境とやりとりするためのインタフェースを提供

- 完全に設定可能
- 割込みおよびウェイクアップ機能を使用
- CPUからIOPORTに直接接続

アプリケーション側の利点

- マイクロコントローラを直接ウェイクアップ
- 幅広い電源電圧をサポート
- IOPORTへの直接接続により、高速なトルク／サンプリング応答が可能



STM32 マイクロコントローラの汎用 IO ピンは、外部環境とのインタフェースを提供します。この設定可能なインタフェースは、マイクロコントローラおよびその他のすべての内蔵ペリフェラルが、デジタルとアナログの両方の信号と接続するために使用されます。

アプリケーション側の利点として、サポートされている IO の電源電圧の幅が広いことや、低消費電力モード時に外部からマイクロコントローラをウェイクアップさせることができることが挙げられます。

STM32F0との違い

3

- GPIOインターフェースはSTM32F0マイクロコントローラに似ていますが、細かい違いがいくつかあります。

	STM32F0	STM32G0
リセット状態	入力モード	アナログ・モード
Cortexへの接続	AHBバス	IOPORT
LPモードでのプルアップ／ ダウン	いいえ	はい (PWRコントローラで設定)



この表は、STM32F0 マイクロコントローラとの違いを示しています。

STM32G0 マイクロコントローラがリセット状態のとき、ほとんどの IO ポートは、エネルギー消費を最小限に抑えるためにアナログモードで設定されます。

Cortex®-M0+ コアは、シングルサイクル I/O ポートバスを介して GPIO レジスタに直接アクセスできます。これにより、出力の状態を変更したり、入力の状態を読み出したりするための低レイテンシのダイレクトパスが提供されます。

IO ピン用に個別に設定されたプルアップ抵抗またはプルダウン抵抗は、低消費電力モードに入っている間アクティブに維持にすることができます。これは PWR モジュールで設定します。

- 最大60*本のI/Oピンの双方向動作
 - GPIOA~GPIOFと名付けられた最大5つのGPIOポート間で共有され、1ポートあたり最大16本のI/Oピンを持つ
 - すべて外部の割込みおよびウェイクアップ機能を使用
 - BSRRおよびBRRレジスタを使用したアトミックなビット単位のセットおよびビット単位のリセット
 - I/Oピンごとに独立した設定
- GPIOxをIOPORTバスに直接接続
- ほとんどのI/Oピンが5Vトレラント

* : 部品番号とパッケージによって異なる



汎用 I/O は、入力と出力の双方向動作を提供し、I/O ピンごとに独立した設定になっています。これらは、GPIOA~GPIOD、および GPIOF と名付けられた最大 5 つのポート間で共有されます。

それぞれが最大 16 本の I/O ピンをホストします。I/O ポートは、BSRR および BRR レジスタを介したアトミックなビット単位のセットおよびリセット操作をサポートします。

I/O ポートは、シングルサイクル I/O ポートバスに直接接続されています。これにより、2 クロックサイクルごとにピンをトグルするなど、高速な I/O ピンの操作が可能になります。この Cortex®-M0+ ポートは CPU 専用であるため、DMA との競合は発生しません。

ほとんどの I/O ピンは、VDDIOx から 1.6 V を超える電圧が供給される場合、5 V トレラントです。

アプリケーションのニーズに最適な柔軟な動作モード

- 入力モード
 - フローティング(プル抵抗なし)、プルアップ/プルダウン付きの入力、アナログ入力のモード
- 出力モード
 - プッシュプル、オプションのプルアップ/プルダウン付きオープンドレイン
- 設定可能な出力スルーレート速度、最大56MHz
- オルタネート機能モード
- I/Oポート設定を固定するロック機構(GPIOx_LCKR)



汎用 I/O ピンは、複数の動作モードで使用するよう設定できます。

I/O ピンは、フローティング入力による入力モード、内部プルアップまたはプルダウン抵抗を備えた入力モード、またはアナログ入力として設定できます。

I/O ピンは、プッシュプル出力または内部プルアップまたはプルダウン抵抗付きのオープンドレイン出力を備えた出力モードに設定することもできます。

I/O ピンごとに、スルーレート速度を 4 つの範囲から選択できるので、最大速度と I/O スイッチングによる電磁放射の間の最善の妥協点を求めて、アプリケーションの EMI 性能を調整できます。

I/O ピンは、外部環境とのインタフェースとして他の内蔵ペリフェラルでも使用されます。この場合、ペリフェラル用の設定を選択するためにオルタネート機能レジスタが使用されます。

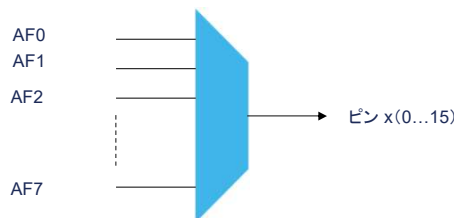
I/O ポートの設定をロックして、アプリケーションの堅牢性を高めることができます。ロックレジスタに正しい書込みシーケンスを適用して設定がロックされると、I/O ピンの設定は、次のリセットまで変更できません。

オルタネート機能

6

I/Oピンの構造は、他の内蔵ペリフェラルによってインタフェースとして使用

- 複数の内蔵ペリフェラルが同じI/Oピンを共有
 - USARTx_TX、TIMx_CHx、SPIx_MISO、EVENTOUT、... などが含まれる。
- オルタネート機能マルチプレクサによってI/Oピンに接続されるペリフェラルを選択
 - 特定のI/Oピンには、一度に1つのオルタネート機能しか接続できない
 - GPIOx_AFRL およびGPIOx_AFRH レジスタによって設定可能 (x = A..D、F)



USART、タイマ、SPI などのいくつかの内蔵ペリフェラルは、外部環境とインタフェースを取るために同じ I/O ピンを共有します。

ペリフェラルはオルタネート機能マルチプレクサを通じて、一度に1つのペリフェラルのみが I/O ピンに接続されるように設定されます。もちろん、この選択は、アプリケーションの実行中に GPIOx_AFRL および AFRH レジスタを介して変更できます。

GPIOx_MODER[MODEi]	GPIOx_OTYPER[OTi]	GPIOx_PUPDR[PUPDi]	I/O 設定
0b00 (入力)		0b00 (プルアップ/プルダウンなし)	入力、フローティング
		0b01 (プルアップ)	入力、プルアップ
		0b10 (プルダウン)	入力、プルダウン
0b01 (出力)	0 (プッシュプル)	0b00 (プルアップ/プルダウンなし)	GP 出力、プッシュプル、フローティング
		0b01 (プルアップ)	GP 出力、プッシュプル、プルアップ
		0b10 (プルダウン)	GP 出力、プッシュプル、プルダウン
	1 (オープンドレイン)	0b00 (プルアップ/プルダウンなし)	GP 出力、オープンドレイン、フローティング
		0b01 (プルアップ)	GP 出力、オープンドレイン、プルアップ
		0b10 (プルダウン)	GP 出力、オープンドレイン、プルダウン
0b10 (オルタネート機能)	0 (プッシュプル)	0b00 (プルアップ/プルダウンなし)	AF 出力、プッシュプル、フローティング
		0b01 (プルアップ)	AF 出力、プッシュプル、プルアップ
		0b10 (プルダウン)	AF 出力、プッシュプル、プルダウン
	1 (オープンドレイン)	0b00 (プルアップ/プルダウンなし)	AF 出力、オープンドレイン、フローティング
		0b01 (プルアップ)	AF 出力、オープンドレイン、プルアップ
		0b10 (プルダウン)	AF 出力、オープンドレイン、プルダウン
0b11 (アナログ)	x	0bxx	アナログ入力



life.augmented

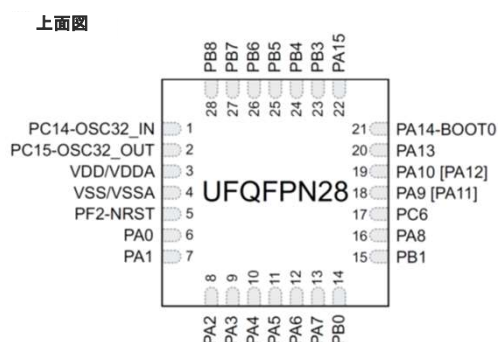
IO ピンの設定は以下の 3 つのレジスタを通して行われます：
GPIOx_MODER、GPIOx_OTYPER、GPIOx_PUPDR。

- レジスタ GPIOx_MODER は、IO ピンの機能を選択します：デジタル入力、デジタル出力、デジタルオルタネート機能、またはアナログ。
- レジスタ GPIOx_OTYPER は、ピンが出力の場合に関係します：オープンドレイン操作かプッシュプル操作を選択します。
-
- レジスタ GPIOx_PUPDR は、ピンがアナログモードで設定されていない場合に関係します。プルアップ抵抗とプルダウン抵抗を有効/無効にします。

再配置可能なGPIO

8

- PA12とPA11の2つのGPIOは、それぞれPA10とPA9によって再配置できます。これにより、ピンがパッケージでネイティブに使用できない場合にそれらの機能にアクセスできます。
 - 再配置は、SYS_CFGレジスタを介して処理されます。



PA9 と PA10 の 2 つのピンによって、それぞれ PA11 と PA12 の 2 つの GPIO を再配置できます。これにより、ピンがパッケージでネイティブに使用できない場合にそれらの機能にアクセスできます。

この再配置により、PA9 と PA10 のピンに関連するオルタネート機能を使用できます。

この再配置は、パッケージが PA9 と PA10 のピンを独立したピンとしてサポートしている場合にも適用されることに注意してください。

I/Oピンに関する特筆事項

9

リセット時はデバッグ・ピンのみがAFモードを維持

- リセット中とリセット後は、オルタネート機能はアクティブではない
 - I/Oポートのデフォルト状態はアナログ・モード
 - リセット中およびリセット後の消費電流を節約(シュミット・トリガはオフ)
- SWDデバッグ・ピンのみがAFプルアップ／プルダウン設定を維持
 - PA13:SWDIO
 - PA14:SWCLK(BOOT0)



リセット中およびリセット後は、オルタネート機能はアクティブではなく、オルタネート機能モードではデバッグピンのみを使用できます。

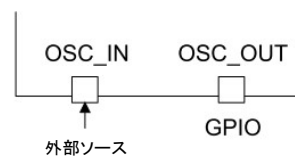
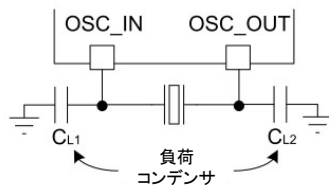
ピン PA14 は BOOT0 機能と共有されています。デバッグデバイスは、ブートモードを選択する BOOT0 端子の値を操作できるため、注意が必要です。

HSE/LSIピンに関する特筆事項

10

・ オシレータ・ピンを標準I/Oピンとして使用可能

- ・ オシレータがオフにされている場合、関連ピンはI/Oピンとして動作
 - ・ HSE / LSEの両方に対して有効
 - ・ この状態がリセット後のデフォルト
- ・ ユーザ外部クロック・モードが使用される場合、2番目のピンはI/Oピンとして動作
 - ・ OSC_INまたはOSC32_INのみをクロックソースとして使用
 - ・ OSC_OUTおよびOSC32_OUTは標準I/Oピン



外部オシレータがオフにされている場合、このオシレータに関連するピンは標準 I/O ピンとして使用できます。これは、デバイスリセット後のデフォルト状態となります。

水晶発振器の代わりに外部クロックソースが使用されている場合、関連する OSC_IN ピンのみがクロックに使用され、OSC_OUT ピンは標準 I/O ピンとして使用できます。

一部のI/Oピンは異なる電源から供給可能

- 新しいI/Oピン電源供給スキームにより、新規のI/Oピン構造と名称を導入
 - FT(5Vトレラント)の定義は新規の略称サフィックスで拡張される
 - 最大VINは、特定のI/Oピンの構造に接続された最小電源電圧によって定義される
 - たとえば、FT_aピンに対しては、 $V_{IN} < \min(V_{DD}, V_{DDA}) + 4.0V$ の式が適用される

略称サフィックス	説明	例
_f	V _{DD} から電源供給を受けるFm+機能のI/O > 高速モード・プラス(Fm+)では最大1Mbit/sのビットレートを実現し追加の出力駆動I/Oを搭載	FT_f
_a	V _{DDA} から電源供給を受けるアナログ・スイッチ機能のI/O	FT_a
_c	I/O、USB Type-C PD対応	FT_c



I/Oピンの新しい複数電源供給スキームにより、新規のI/Oピン構造が導入されています。これまで使用されてきたFT(5Vトレラント)およびTT(3Vトレラント)という名称は、FTとTTの各I/Oピンに対する別電源を強調する略称サフィックスで拡張されています。

Fm+対応のピンに対してこれまで使用されてきたFTfという名称はFT_fに変更されました。サフィックス_aは、アナログ電源から供給されるピンを示します。サフィックス_cは、USB Type-C Power Deliveryをサポートするピンに使用されます。各I/Oピンに対する絶対最大定格は、各I/Oピンにリストアップされた電源の中の最小電圧によって定義されます。

低消費電力モード

12

モード	I/O の説明
RUN	アクティブ。
SLEEP	アクティブ。
低消費電力RUN	アクティブ。
低消費電力SLEEP	アクティブ。
STOP 0	アクティブ。
STOP 1	アクティブ。
STANDBY	内部プルアップ、プルダウン、フローティングの入力としてののみ。 終了すると設定が失われます。
SHUTDOWN	
リセット	マイクロコントローラのリセット中は強制的にアナログ入力モードになります。



STANDBY と SHUTDOWN を除くすべてのモードで I/O ピンはアクティブに維持され、使用可能な設定は、内部プルアップ／プルダウン抵抗付きの入力とフローティング入力のみとなります。

SHUTDOWN モードを終了すると、I/O 設定は失われます。マイクロコントローラのリセット中には、I/O ピンは強制的にアナログ入力モードとなります。

GPIOに関するSTM32G0の制限

13

- デバイスの一部のGPIOでは、他の内部機能にリンクされた機能が制限されている。
 - UCPD CCライン: これらのラインは出力速度が制限されます。
 - UCPD DBライン: これらのIOの電圧レベルは、CCラインのプルダウンを有効にする可能性があります。この状況を克服するために、ユーザがその影響を確認できないようにするため、SYSCFGレジスタに2つのSTROBEビットが存在します。
 - VBATドメインのGPIO: 他のデバイスと同様に、これらのIOの駆動電流は制限されています。



VBATドメインのGPIO: PC13、PC14、およびPC15は電源スイッチを経由して接続されます。スイッチに流すことができる電流は限られているので(3 mA)、出力モードでのGPIO PC13~PC15の使用には制限があります。

- 最大負荷 30 pF で最大速度が 2 MHz を超えてはなりません
- これらのGPIOを電流ソースとして使用することはできません(たとえば、LEDを駆動するなど)。